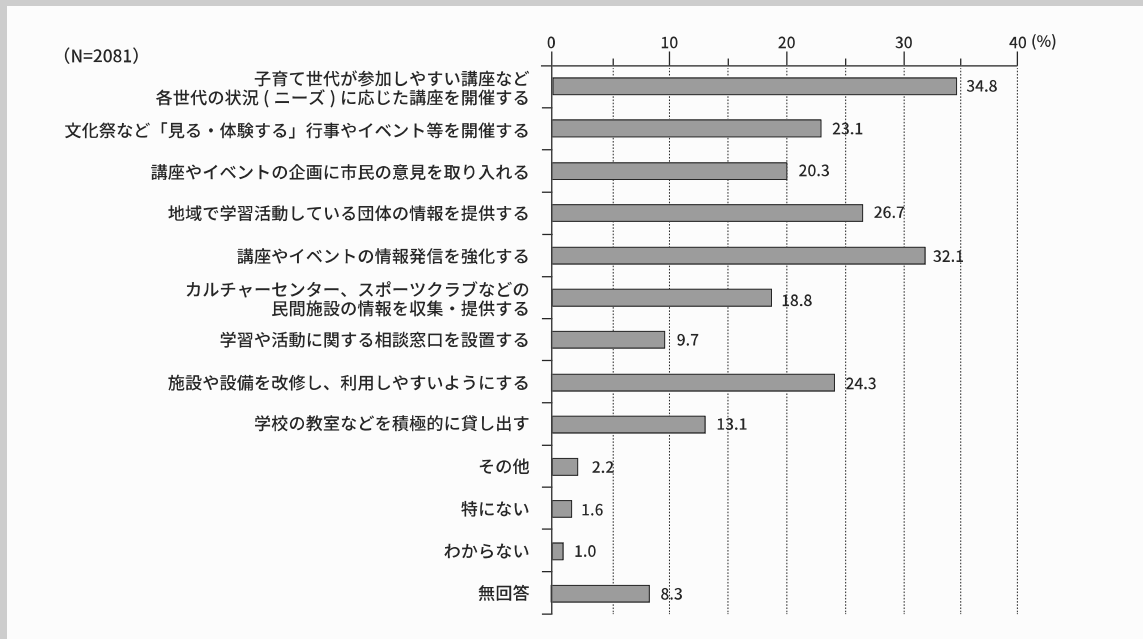


○多様な世代が生涯学習をはじめめるきっかけづくりとして「子育て世代が参加しやすい講座など各世代のニーズに応じた講座を開催」「講座やイベントの情報発信の強化」が求められている

生涯学習をはじめめるきっかけづくりに力を入れる点として、「子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する」が34.8%と最も多く、次いで「講座やイベントの情報発信を強化する」が32.1%、「地域で学習活動している団体の情報を提供する」が26.7%となっています。（図表 17）

【図表 17 生涯学習をはじめめるきっかけづくりに力を入れる点】



資料：北九州市

一般市民では「子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する」（43.0%）が最も多くなっています。一方、センター利用者では「講座やイベントの情報発信を強化する」（31.7%）が最も多くなっています。（図表 17-1）

【図表 17-1 生涯学習をはじめめるきっかけづくりに力を入れる点（一般市民、センター利用者）】

	全体	子育て世代が参加しやすい講座など各世代の状況（ニーズ）に応じた講座を開催する	文化祭など「見る・体験する」行事やイベント等を開催する	市民の意見を取り入れる	講座やイベントの企画に	地域で学習活動している団体の情報を提供する	講座やイベントの情報発信を強化する	カルチャーセンター、スポーツクラブなどの民間施設の情報収集・提供する	相談窓口を設置する	学習や活動に関する相談窓口を設置する	施設や設備を改修し、利用しやすいようにする	学校の教室などを積極的に貸し出す	その他	特にない	わからない	無回答
全体	2,081人	34.8	23.1	20.3	26.7	32.1	18.8	9.7	24.3	13.1	2.2	1.6	1.0	8.3		
利用者別	一般	741人	43.0	23.5	18.5	27.4	32.8	26.9	13.5	24.0	10.8	3.0	3.8	2.2	5.1	
	センター利用者	1,340人	30.3	22.9	21.3	26.3	31.7	14.3	7.6	24.4	14.3	1.8	0.4	0.4	10.1	

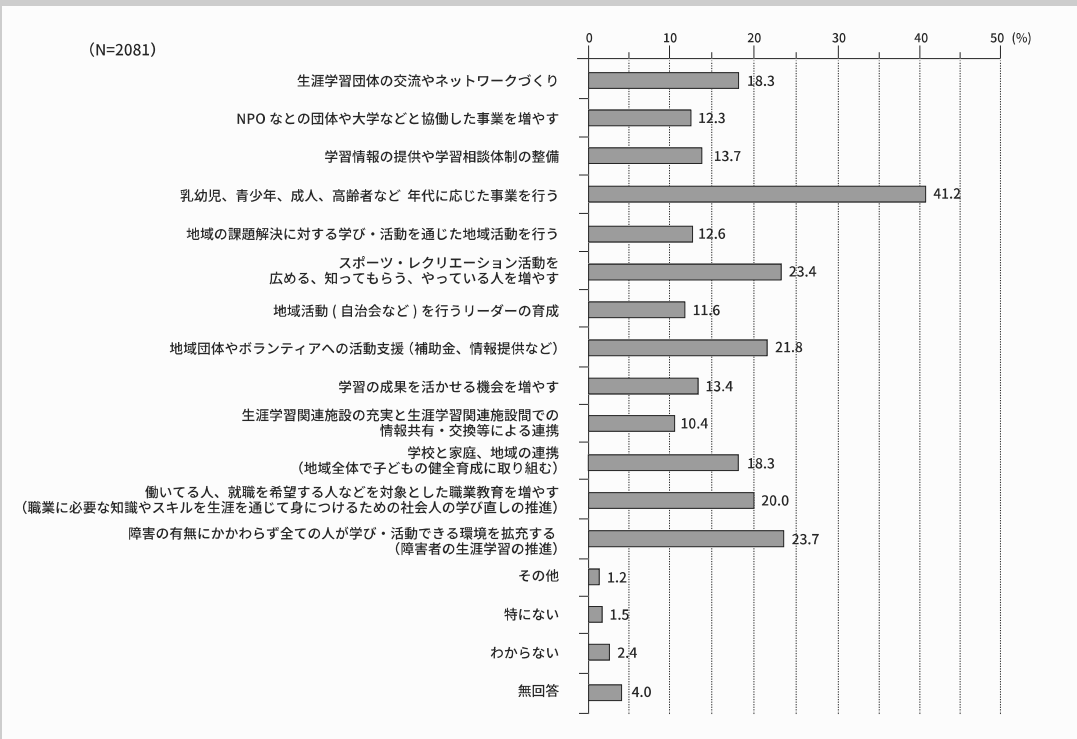
資料：北九州市

○生涯学習を推進していくため「年代に応じた事業」「障害者の生涯学習の推進」「スポーツ・レクリエーション活動の周知や活動する人の増加」の取り組みの支援や推進が求められている

生涯学習の推進に求められることは、「乳幼児、青少年、成人、高齢者など年代に応じた事業を行う」が41.2%とやや突出して多く、次いで「障害の有無にかかわらず全ての人が学び・活動できる環境を拡充する（障害者の生涯学習の推進）」が23.7%、「スポーツ・レクリエーション活動を広める、知ってもらう、やっている人を増やす」が23.4%となっています。（図表 18）

一般市民とセンター利用者を比較すると、一般市民、センター利用者ともに「乳幼児、青少年、成人、高齢者など年代に応じた事業を行う」が最も多くなっています。（図表 18 - 1）

【図表 18 今後の生涯学習に必要なこと】



資料：北九州市

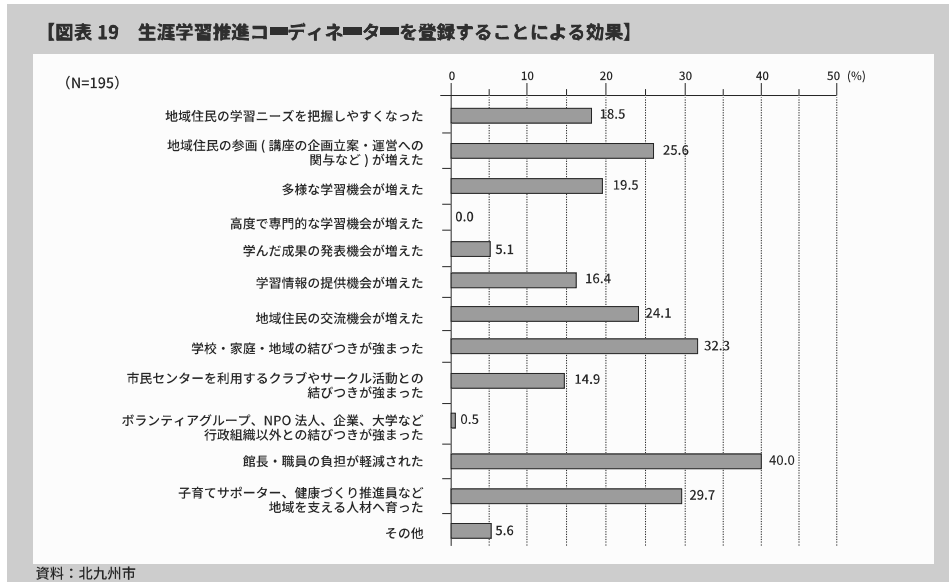
【図表 18-1 今後の生涯学習に必要なこと（一般市民、センター利用者）】

	全体	生涯学習団体の交流やネットワークづくり	NPOなどの団体や大学などと協働した事業を増やす	学習情報の提供や学習相談体制の整備	乳幼児、青少年、成人、高齢者など年代に応じた事業を行う	地域の課題解決に対する学び・活動を通じた地域活動を行う	スポーツ・レクリエーション活動を広める、知ってもらう、やっている人を増やす	地域活動（自治会など）を行うリーダーの育成	地域団体やボランティアへの活動支援（補助金、情報提供など）	学習の成果を活かせる機会を増やす	生涯学習関連施設の充実と生涯学習関連施設間での情報共有・交換等による連携	学校と家庭、地域の連携（地域全体で子どもの健全育成に取り組む）	働いている人、就職を希望する人などを対象とした職業教育を増やす（職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身につけるための社会人の学び直しの推進）	障害の有無にかかわらず全ての人が学び・活動できる環境を拡充する（障害者の生涯学習の推進）	その他	特にない	わからない	無回答
	(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体	2,081	18.3	12.3	13.7	41.2	12.6	23.4	11.6	21.8	13.4	10.4	18.3	20.0	23.7	1.2	1.5	2.4	4.0
利用者別																		
一般	741	16.6	12.6	15.0	36.6	10.0	24.7	8.2	16.3	13.8	9.4	14.2	27.1	26.5	1.5	2.6	3.6	5.4
センター利用者	1,340	19.3	12.2	13.0	43.8	14.1	22.7	13.4	24.8	13.2	11.0	20.6	16.1	22.2	1.1	0.9	1.6	3.3

資料：北九州市

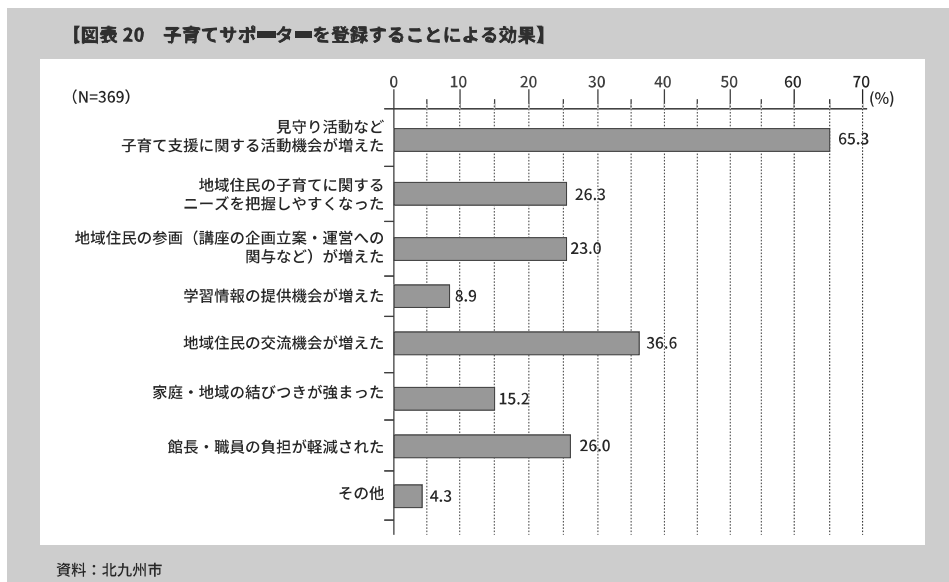
- 生涯学習推進コーディネーターが登録されたことにより、「館長・職員の負担の軽減」、「学校・家庭・地域の結びつきが強まった」などの効果があった（市民センター関係者向け）

生涯学習推進コーディネーターが市民センターに登録された効果として、「館長・職員の負担が軽減された」が40.0%と最も多く、次いで「学校・家庭・地域の結びつきが強まった」が32.3%、「子育てサポーター、健康づくり推進員など地域を支える人材へ育った」が29.7%となっています。（図表 19）



- 子育てサポーターが登録されたことにより、「見守り活動など子育て支援に関する活動機会が増えた」、「地域住民の交流機会が増えた」などの効果があった（市民センター関係者向け）

子育てサポーターが市民センターに登録された効果として、「見守り活動など子育て支援に関する活動機会が増えた」が65.3%と最も多く、次いで「地域住民の交流機会が増えた」が36.6%、「地域住民の子育てに関するニーズを把握しやすくなった」が26.3%となっています。（図表 20）



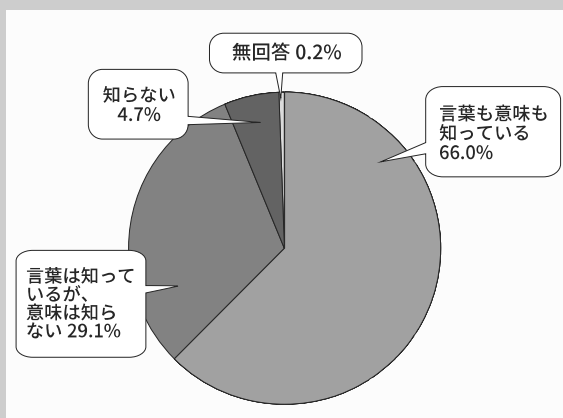
7. 生涯学習推進計画（平成28年度～令和2年度）における施策毎の成果と今後の課題

施策1 学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備

◆これまでの成果

令和元年度の「生涯学習に関する市民意識調査（以下、「生涯学習意識調査」）」では、生涯学習という言葉の認知度は、平成26年度の調査結果と比べ、大きく変わらず9割程度の方が認知しており、高水準を維持しています。（図表1）

【図表1 「生涯学習」という言葉についての認知度】



資料：北九州市

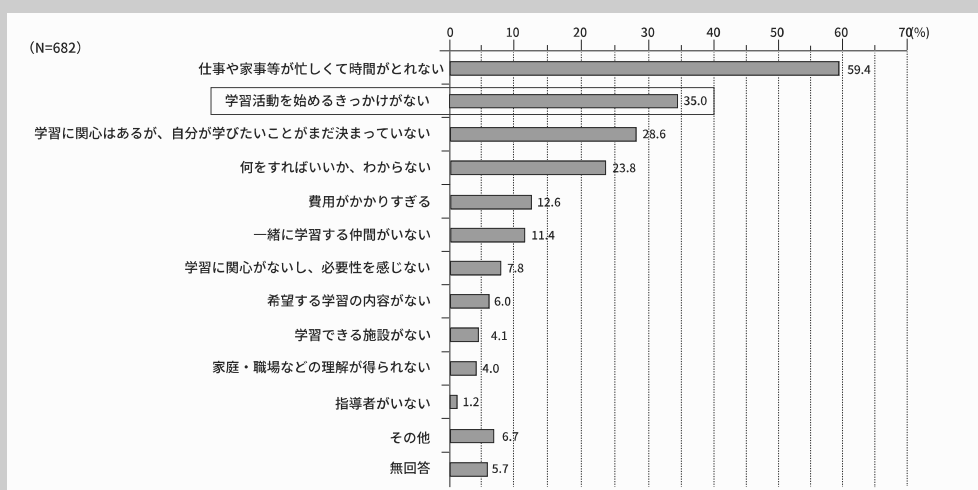
また、行政、社会教育関係団体、学校、NPO、ボランティア団体、企業などにおける生涯学習の取り組みについて、お互いの強みや課題を共有するためのネットワークを構築し、相互の情報を提供しました。

その結果、市民へ様々な学習情報を提供するため、民間教育事業者の近隣5館の市民センターで民間教育事業者のチラシを配置しました。（民間教育事業者が実施したアンケート結果で、市民センターに配置しているチラシを見て講座への参加者有り。）

◆現状と今後の課題

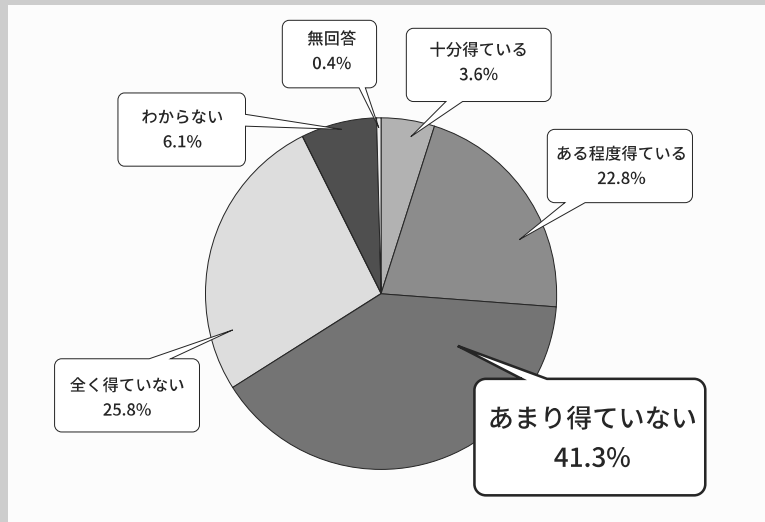
「生涯学習意識調査」の結果では、生涯学習活動をしていない理由として「仕事や家事等が忙しく時間がとれない」に次いで、「学習活動を始めきっかけがない」が2番目に多く、生涯学習に関する情報は、一般市民の回答では、「あまり得ていない」が最も多くなっています。（図表2、図表3）

【図表2 学習活動をしていない理由】



資料：北九州市

【図表3 生涯学習に関する情報量の満足度（一般市民）】



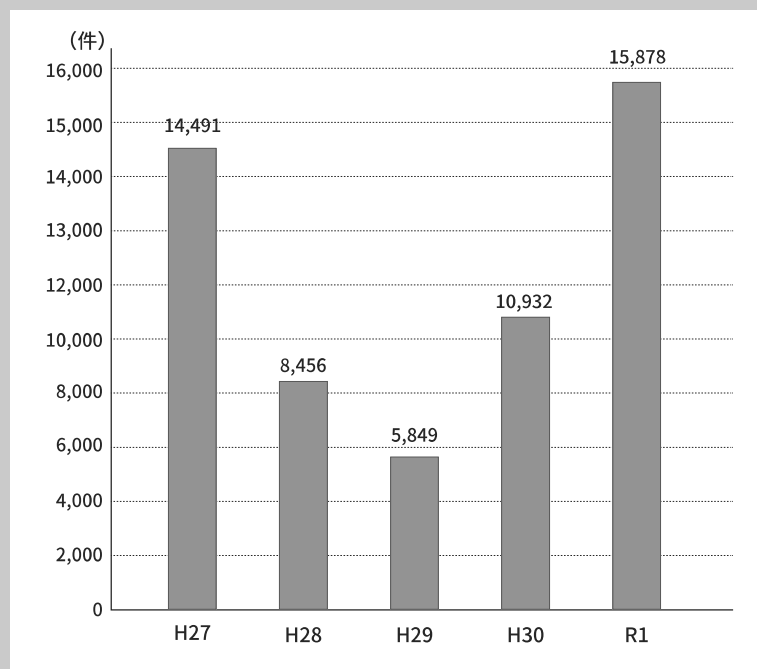
資料：北九州市

また、同調査で生涯学習を実施する各機関をつなぐネットワークの仕組みで今後必要なことは、「情報一元化などアクセスの向上」と回答した割合が最も高くなっています。

より多くの市民に生涯学習活動のきっかけづくりとなる情報を提供するため、行政や社会教育関係団体、企業、NPO、学校等が協力した情報の一元的な提供や事業周知が求められます。

また、市内の講座や講師の情報など、様々な情報を一元的に提供する「まなびネットひまわり」をより多くの方に利用してもらうため、システム及び内容の充実を図る必要があります。（図表4）

【図表4 「まなびネットひまわり」へのアクセス件数】

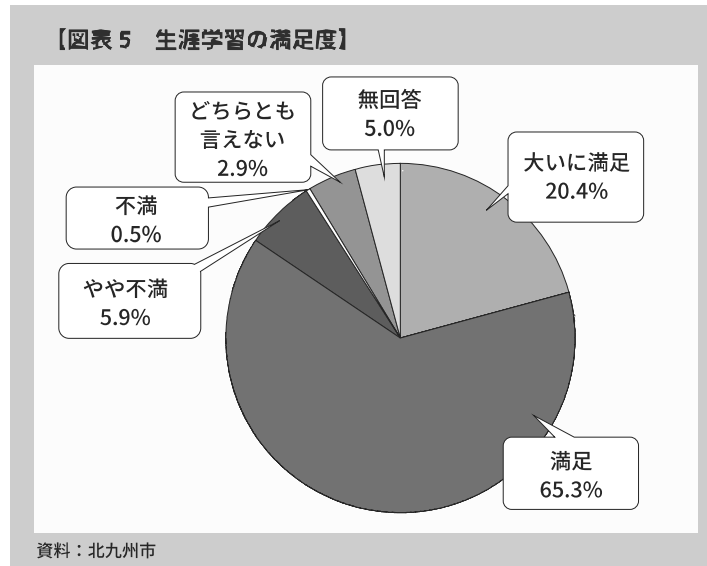


資料：北九州市

施策2 市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

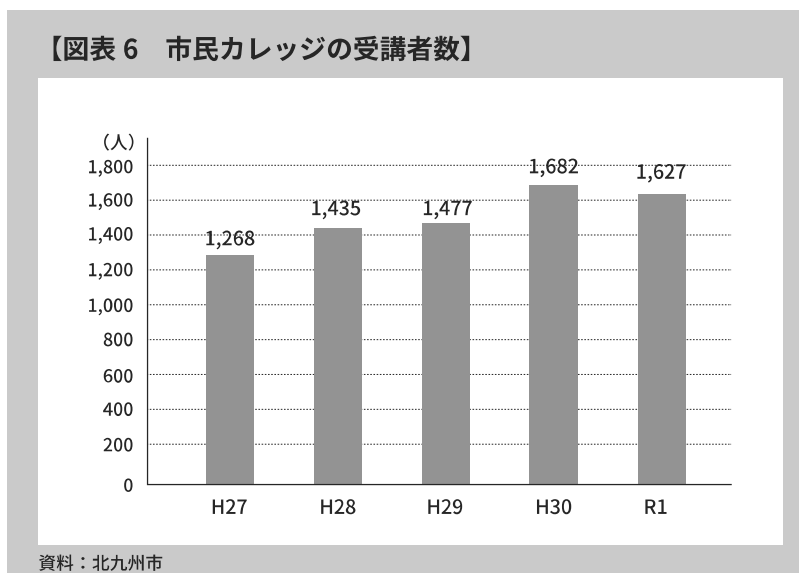
◆これまでの成果

「生涯学習意識調査」の結果では、生涯学習の満足度は、平成26年度の調査結果と比べ、大きく変わらず約9割以上の方がおおむね満足しており、高水準を維持しています。(図表5)



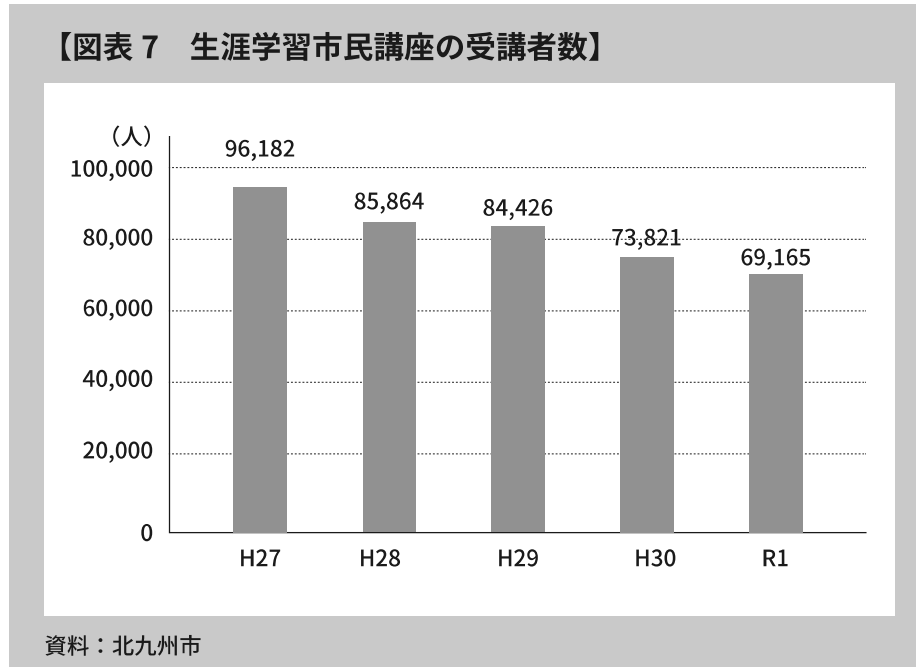
特に、市民カレッジにおいて、大学、NPO、民間などと協力し、市民の多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、また、平成29年度から、連続した講座の中から好きな回を選んで受講する「スポット受講」ができるよう工夫しました。スポット受講者数は、令和元年度は開始年度より100名程度増えており、市民カレッジの受講者数も増えました。(図表6)

また、生涯学習を通して、地域づくりや現代的課題への取り組みを推進するため、市民センターで実施される生涯学習市民講座の事業計画書や学習分類表を見直し、市民センター館長、職員の意識の醸成を図りました。



◆現状と今後の課題

「生涯学習意識調査」の結果では、一般市民の回答はセンター利用者より「学習活動をした」割合は低い状況です。また、市民センターで実施される生涯学習市民講座の受講生は減少傾向にあるため、今後、多くの方に参加してもらうため、行政だけでなく様々な関係機関と連携し、講座の充実や広報、学びへのきっかけづくりに取り組む必要があります。(図表7)



また、同調査では、今後の生涯学習の推進に必要なこととして、「年代に応じた事業を行う」ことが一番多く、2番目に「障害の有無に関わらず全ての人が学び・活動できる環境を拡充する」となっています。

そのため、ライフステージに応じた学習機会を引き続き提供するとともに、障害者や外国人住民の方が生涯学習に触れるきっかけや学習機会を提供し、より一層、誰でも生涯学習に参加できる環境づくりを進めることが求められます。

同調査では、行政が趣味・文化的な講座を主催することについて、一般市民の回答は「行政と民間で整理すべき」が最も多くなっています。引き続き、生涯学習を推進するためには、「個人の要望」に基づく学習のみならず、「社会の要請」に基づく学習機会として、地域の課題解決、人材発掘・育成、地域づくりにつながる学習機会の強化・充実が必要です。

施策3 地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

◆これまでの成果

主体的に地域課題に取り組む人材育成のため、北九州市民カレッジ（地域力アップセミナー、社会教育・生涯学習基礎講座）、女性リーダー国内研修、生涯学習指導者育成セミナー等を実施し、生涯学習に係る地域のリーダー育成に努め、多くの受講者が地域のリーダーとして活躍しています。その後、自主的なボランティアグループを結成し、地域でのボランティア活動や市民向けのイベント・講座を開催しています。（図表8）

また、地域における子育てを支援するため、きめ細かなアドバイスを行う「子育てサポーター」を養成し、市民センターのフリースペース等で、子育てやしつけ等の相談に対応するなど、学んだ成果を地域の子育て支援に活かしています。（図表9）

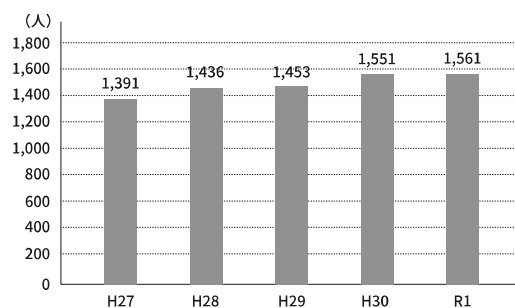
その他、行政機関等で実施した講座の終了後にアンケート調査を行い、受講者を活動の場へつなぐマッチングを実施し、33名を地域活動やNPO・ボランティア活動の窓口につなげました。また、行政と民間教育事業者との連携により、民間教育事業者の講師に、成果発表の場を創出するため、行政主催の事業において発表の場を提供しました。

【図表8 地域課題へ取り組む人材育成セミナー 計:234人(H27~R1)】

北九州市民カレッジ(地域力アップセミナー)(132人) 修了後:ボランティア団体を結成し活動、市民センター館長等
北九州市女性リーダー国内研修(33人) 修了後:北九州婦人教育研究会の会員として、女性の社会参加の促進。 まちづくり協議会役員等、市民センター館長
生涯学習指導者育成セミナー(69人) 修了後:まちづくり協議会役員、自治会役員、市民センター館長等

資料:北九州市

【図表9 子育てサポーター登録者】



資料:北九州市

◆現状と今後の課題

地域の課題解決等に熱意をもって取り組む多様な人材を育成する新たな仕組みや、子育てサポーター・生涯学習推進コーディネーター等を地域活動をリードする人材に育成していくため、活動の裾野を拡げていくことが求められます。

また、「生涯学習意識調査」の結果では、学習成果を活かした社会貢献の意向は、一般市民、センター利用者ともに「活かしたい」と回答した割合が4割程度あり、生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこととして、「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」と回答した割合が最も高くなっています。

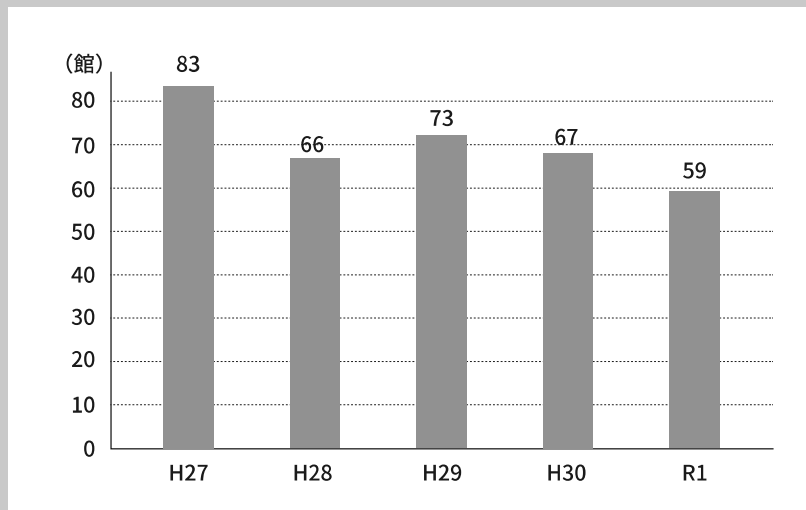
そのため、学びから活動へつながる仕組みづくり、きっかけづくりについて、引き続き検討し、より効果的・効率的に取り組むにつなげる必要があります。

施策4 学習を支える体制づくりと環境整備

◆これまでの成果

市民の学びを支える体制づくりを推進するため、市民センターにおいて、地域の人材である生涯学習推進コーディネーター、子育てサポーターを継続的に養成してきました。また、地域づくりの拠点である市民センターの館長に対し、地域の現状や課題を十分把握するとともに、地域に寄り添った支援を行うための能力向上を目指す研修を実施しました。(図表 10)

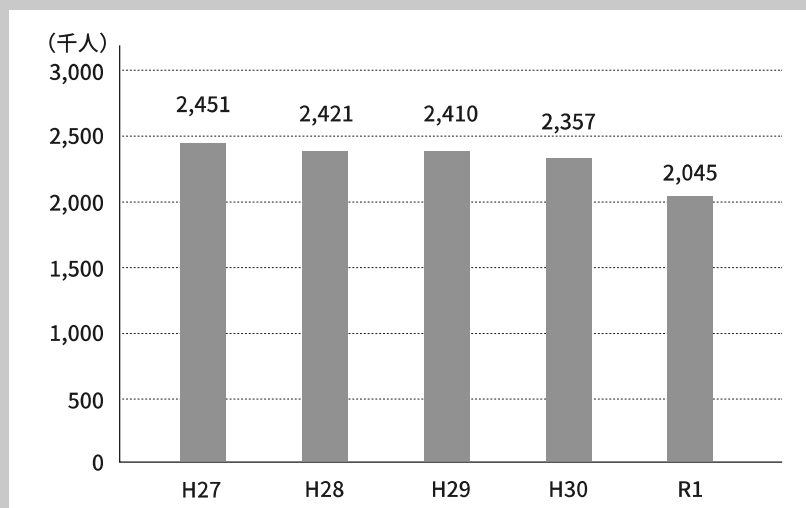
【図表 10 生涯学習推進コーディネーター配置館数】



資料：北九州市

生涯学習関連施設が多く学び・つながり・活動の場として利用され、市民、地域や団体等の多様な生涯学習のニーズに対応してきました。また、各施設が引き続き利用しやすい施設となるため、適宜、施設整備を行いました。(図表 11)

【図表 11 生涯学習関連施設の利用者数の合計】



資料：北九州市

◆現状と今後の課題

「生涯学習意識調査」の結果では、市民センター館長やまちづくり協議会関係者等からの回答によると、生涯学習推進コーディネーターを配置する効果として、「学校・家庭・地域の結びつきが強まった（32.3%）」、「地域を支える人材へ育った（29.7%）」との意見が多くあり、地域づくりを担う人材になっています。生涯学習推進コーディネーターは、市民センター等における生涯学習事業の企画・運営や、市民センターだより等の広報活動等、地域とのパイプ役として、より多くの市民センターに配置し、地域の人材として育てていくことが求められます。

同調査では、市民センター館長やまちづくり協議会関係者等からの回答によると、子育てサポーターを配置する効果として、「子育て支援に関する活動機会が増えた（65.3%）」、「地域住民の交流機会が増えた（36.6%）」との意見が多くあり、地域における子育て支援に貢献しています。子育てサポーターは、市民センターのフリースペース等で、子育てやしつけ等の相談に対し、きめ細かなアドバイスを行っています。今後は、市民センターにとどまらず活動の場を拡充することが求められます。

同調査では、生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこととして「学んだ人と地域の人をつなぐマッチング」と回答した割合が最も高くなっています。市民センターで行われる生涯学習事業やその他の地域づくりにつながる活動がますます発展するよう、市民センター館長、地域・人づくりアドバイザー（社会教育主事）等のスキルアップを図る必要があります。

生涯学習関連施設は、市民の学習活動を支援するための施設であり、多くの人に利用されています。今後は、社会環境の変化により、生涯学習関連施設に行き、学習活動を行うことができない場合も考えられるため、生涯学習関連施設に行かなくても学習活動が行える仕組みが求められます。

また、公共施設マネジメント実行計画の方針に基づき、「選択」と「集中」の観点から、にぎわいづくりや活性化にも留意しながら、現在及び将来のニーズ等を見据えて公共施設を再構築する視点を踏まえながら検討を続ける必要があります。

施策5 学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

◆これまでの成果

核家族や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化など、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、すべての教育の出発点である家庭の教育力の向上を目指し、家庭教育学級の開催や子育てサポーター活動を継続的に実施しました。特に、家庭教育学級を通じ、保護者の不安軽減や保護者同士のつながりを生むとともに、市民センターを媒体として、地域活動へ参加するきっかけづくりとなり、次世代の人材発掘にも寄与しています。

家庭教育学級の実施方法について、参加する保護者の減少や企画運営する保護者の役割などの課題に対応するため、令和元年度から、家庭教育学級の柔軟な運営（状況に応じ市民センターと保護者の役割分担を変える「選択制」導入）・学習時間の規定を緩和（「学習